

「新自由主義の自民党には投票したくないんですが？」

平成 26 年 12 月 2 日

●エブリマンさんからの質問

11 月 18 日安倍総理は衆議院解散を国民に向け演説しました。その演説の中で相変わらず岩盤規制に立ち向かうなど、第三の矢による経済成長を訴えておりました。この第三の矢に対する批判を自分の一票でどう表せばよいのか悩んでおります。自民党に一票を入れると、第三の矢を認めてしまうことになります。民主党は中間層へ配慮を言及しております。民主党には投票したくありませんが、第三の矢を批判するためには致し方がないのかと非常に苦しい状態です。西田先生から安倍総理、そして自民党にすでに失敗が判明している新自由主義政策・ギャンブル依存症経済主義に決別するよう説得してください。西田先生しか頼る政治家はいません。何卒、何卒よろしく願います。

●西田昌司の答え

エブリマンさんのおっしゃる気持ちは非常によくわかりますが、この状況は今回に始まったことではありません。

自民党が民主党に政権を奪われてしまった一番の理由は、国民が自民党の新自由主義的な面に愛想が尽きたからだと思います。私は平成 19 年の選挙で参議院議員になりましたが、その頃から自民党の部会等で「自民党は新自由主義から決別しないと国民から見放されてしまう。郵政民営化を始めとした馬鹿な改革騒ぎはもう止めるべきだ」とずっと訴えてきました。現にその平成 19 年の参議院選挙で自民党は大敗を喫してしまい、約 1 ヶ月後に第 1 次安倍内閣は退陣しました。その後、福田内閣、麻生内閣と続きましたが、誤った新自由主義の転換も十分にされないままに遂に民主党に政権を明け渡

す結果となったのです。

自民党は参議院選挙で大敗した時に、なぜそのようなことになったのかの反省をきちんとすべきでしたが、まだまだ危機感が足りませんでした。「参議院では負けても、(内閣総理大臣の指名権限を持つ)衆議院で負けるわけないじゃないか」と高を括る議員が沢山いたことを思い出します。民主党は小泉構造改革を始めとした自民党の新自由主義的政策を批判していましたが、自民党の新自由主義な面に嫌気が差していた国民の人気をどんどん集め、遂に衆参両院で勝利を収めて政権をとりました。しかし、その後の民主党政権の体たらくは皆さんもよくご存知のことと思います。

自民党に政権奪還された民主党は今、「分厚い中間層を再生させる」などかつてと同じようなことをまたぞろ言い始めています。分厚い中間層を再生させなければならないこと自体は全く正しいですし、彼らは子育てをしっかりと出来る社会を作るために子ども手当を出す主張して実行はしましたが、民主党政権時に彼らが正しい努力をしたとは到底言えません。民主党が政権をとる以前から、「子ども手当の財源は一体どこにあるのか」と自民党は問い質していましたが、民主党は「無駄を無くせばどうにでもなる」と豪語し、「コンクリートから人へ」というスローガンの下、財政出動をどんどん削減していきました。彼らは自民党の新自由主義的政策を批判しながらも、政権奪取後は自民党以上に新自由主義的政策にはまってしまい、日本経済をどん底に落としてしまいました。

自民党と民主党のどちらにも投票したくない、というエブリマンさんの気持ちは私も痛い程よくわかりますが、かつてと比べて現在の自民党には新自由主義に対して警戒心を持つ議員が確実に増えています。今の政府を見ると新自由主義に毒されているように見えますが、それを止めるためにも自民党内に同志を増やさなければなりません。民主党が政権をとることはもうないと思いますが、彼らに政権をとらせたとしてもかつての過ちを繰り返すだけの結果にしかありません。民主党政権に比べて、今の安倍政権がトータルで考えると遥かにマシであることは皆さんも異論のないところだと思

ます。

今回の選挙は、どこに入れるか非常に悩ましい選挙だと思いますが、私は政府の新自由主義的な政策を方向転換させるべく、いろいろな人にも働きかけて頑張ってきましたし、これからも全力で努力することを皆さんにお約束します。今回の投票にあたっては、消極的ながらも「自民党へ一票を」とお願い申し上げます。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>